



上空から見た校舎

共学

# 朝日塾中等教育学校

JR岡山駅から津山線に乗りかえて金川駅で降りると、駅前をかつての「国道五十三号線」が通っている。現在は東側にバイパスが開通したことで交通量は減り、辺りは静かな佇まいだ。

この御津地区は、鎌倉時代から「備前の雲類(鶉飼派)」の名刀で知られるが、江戸時代は岡山藩家老の陣屋町として廻船業や酒づくりで栄えていた。

金川駅から吉備高原を少し上ったところに朝日塾中等教育学校がある。二〇〇四年に「教育特区の研究開発推進学校(株式会社)」として開校。七年後に学校法人に移行した。一八年からは国際バカロレア(IB)の候補校となり、二年一月、一条校では中国地方初の「MYP・DP一貫教育認定校」として認められた。

学年定員五十人の小規模校ながら、大学並みの分析機器類を含む設備を完備し、生徒と教職員の比率が三対一のぜいたくさ。生徒一人ひとりの個性を伸ばすべく、丁寧に対応していることから海外からも注目され、留学生が在校生の三分の一を占めている。

## 個性を伸ばす ハイレベルの教育

校門を入ると正面に枝垂れ桜が待っていた。その脇には「夢一途に」と刻まれた石碑がある。

「一九八二年に朝日塾幼稚園を開設した折、創立者が『いずれは国連職員になるような人材を育てたい』という夢を語りました。それ以来、学園グループとして『個性を伸ばすハイレベルの教育』を目指して歩んできました。生徒に夢を持って一歩一歩努力していつてもらいたいです」と、国際交流部長の杉原大輔先生が説明してくれた。

杉原先生は帰国生、留学生、寮生の支援・管理や海外広報の責任者で、海外子女教育振興財団の海外学校説明会にも出かけていた。タイや中国にある姉妹校とは、オンライン交流授業も展開している。

「それが縁で、姉妹校からの留学生は多いですね。IB校という信頼感もあるのでしょうか、温暖な気候や治安のよさ、きめ細かい面倒見のよさなどを知ってもらえますから」と話す。

校長自ら「TOK(知の理論)」



Aさん(手前)とBさん(桜の後ろ)。杉原先生(桜の前)。友人たちもいっしょに。

の授業を担当し、地域社会を巻き込んだ活発なフィールドワークやボランティア活動を展開する様子は、インターネット上でも動画配信されている。「小規模校だからできること」が最大限生かされ、「IBワールドスクール」であるとはこういうことでは？」と訴えかけてくる。

## 「違和感」とどう向き合うか

帰国生や留学生を多数受け入れれば、日々「違和感」と向き合わざるを得ない。たんなるイベントとして国際交流を行っている学校にはない苦勞もあるはずだ。

「たしかに葛藤や軋轢はあります。でも私たちは、人が持つ違い

\*DPコースは日本語DP。英語・数学以外は日本語で授業。

所在地：〒709-2136 岡山市北区御津紙工2590  
 TEL：086-726-0111  
 FAX：086-726-0400  
 URL：https://m-asahijuku.ed.jp  
 交通：JR津山線「金川」駅からバス20分、「紙工」下車。

※ JR「岡山」駅からスクールバスあり  
 ※ 岡山空港から車で15分  
 生徒数：中=77人 高=94人  
 帰国生数：中=4人 高=1人  
 教職員数：専任48人（うち外国人3人）  
 非常勤33人（うち外国人1人）  
 帰国生入試の出願資格：  
 海外にある教育機関に在籍していた期間が連続して1年と1日以上の方。



地域大学の授業風景

を『違い』として理解し、衝突を恐れずに真つすぐに向き合い、他者理解を深める機会に恵まれていると考えます。それが建学の精神である『利他・叡智・剛健』を兼ね備えた次代を担う人材に育つて

いく道ではないかと。

イベントの実行委員会でも、生徒同士の異文化や個性のぶつかり合いがありますが、教員はじっくりと待ちます。見守る私たちは『最悪の事態を想定しつつ、楽観的に行動する』をモットーにしています（笑）」と杉原先生は語る。

建学の精神にある『利他（自分のことよりも他者の幸福を願う心）は、生徒同士の教え合い・支え合いにもつながる。外国育ちの生徒でも日本語力不足等を克服し、自己実現に向かうことを保障している。また、他者の幸福には、地域社会全体の幸福も含まれている。生徒の活動が、地域起こしと一体となっている点は特筆に値する。』

「きっかけは、IB一期生が中三のときに実施したフィールドワークです。『この地区が衰退した原因は？』というテーマで生徒が飛び込んでいきまして（笑）、従来の『公民』の授業にはない手ごたえがありました。それがいまは、地域とのさまざまなコラボレーションを生み出しています。生徒が『IBの学習者像』に近づくことで、地元のかたがたからも『この子たち変わったね』と褒められはじめました」とのこと。

## 御津元気プロジェクト

春休み明け、寮長を務めている高三（DP一期生）の男女に話を聞いた。タイからの留学生Aさんは、中一からここで学んでいる。「アニメなどが大好きで、幼いころから日本に憧れていました。たまたま母の知人がこの学校に見学に行ったんです。治安がいいし、何より少人数制に魅かれました」と、しっかりと日本語で話す。中二で英検準一級と日本語能力試験一級に合格したという。

バンコク日本人学校から入学したBさんは、父親の任期が長いので、単身帰国して学べる寮がある高校を探したそうだ。

「中二のとき、バンコクで日本の高校の合同説明会があって、そこ

で知ったこの学校に、母といっしょに見学に来ました。私は昆虫が好きだから、自然の多い場所の高校に行きたかったんです」と笑う。MYPの四年目から参加した苦労は、「いきなり『Personal Projectでエッセイを』と言われて困ったことです。日本人学校で、絶滅しそうな日本の昆虫の自由研究をしていたので、それを書き直して（笑）。それは日本語で出せたからよかったんですが、（翌年からの）DPは英検準一級レベルが必要と言われて、度肝を抜かれました」と言う。

横から「あのレポート、よかったよ」とAさん。級友の支えがあつて英語力が伸び、学びが深まつていく空気がそこに流れていた。

留学生と共にを行う地域活動は「御津元気プロジェクト」と名づけられ、付近の高校や老人会まで参加するものになっている。だから皆、顔見知り……：毎日が異文化・世代間交流の営みだ。

農業と工芸の里に抱かれながら、未来を見据え世界を見通す学びで、教職員も生徒もどんどん成長していく。そうやって豊かな心も育かれていくようだ。

（取材・文 小山和智）



地元の祭りで日中両国の獅子舞を披露